

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 2020年 2月 26日

事業所名 児童デイサービス わくわく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・必要に応じて区切ることで対応している。	・定員10名であれば問題はない
	2	職員の配置数は適切である	5	1	・適切ではあるが、子どもの状況に合わせてアルバイトに入ってもらっている。(送迎を安全に行う為など) ・加配加算が取れるまで職員数が安定した。	・現在は問題ないが、指導員の負担軽減の為、ドライバーを担ってくれる方の協力が必要。ドライバーの高齢化にも注意。 ・パニック等で対一で大人がつかなければならない時以外は適切だが、イレギュラー等が起こった場合は人数不足になる。 ・今年度、職員の数が増えた。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		・段差もなく、車いすも利用可。	・車は、車いす用を借りる必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	・スタッフ会議で取り扱っている。	・事業所のスタッフ間ではできているが、組織・法人となると広くは参画できていない。 ・次へ行かせていない。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	・事業所オリジナルのアンケートを作り、業務改善につなげている。 ・その都度、要望に応えられる範囲内で応えている。	・保護者の意見を反映させたいが、アンケートの提出先のポストを作ったり、封筒に入れて期限まで開封しなかったとしても、文字の記入がある為、保護者の思いを知るには本音は書きづらいと感じる。本音を伝えられない現状である中、誰の為のものかが疑問である。 ・実際に、保護者からの声もある!(その通りだと感じる) ・事業所以外の機関がすべきではないか?
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			・自己評価も同じで、不利益になることをあえて記入しているとは思えない為、それを閲覧できても参考になるとは思えない。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	・福祉介護サービス相談委員会での評価の報告を受けている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・午前中など参加しやすい時間帯には勤務として全体で参加もしている。 ・研修案内を共有スペースに起き、スタッフの自己申告にしている(研修内容をチェックして申し出る) ・研修に参加できる機会が多い。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		・個別支援会議半年に1度行っている。高3生については、年3回開くことで、次の進路に引継ぎできるように資料を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	・必要に応じて活用。(SM社会生活/ヴァインランド)	・同法人内に心理士も勤務している為、機会を作って指導員では難しい検査なども取り入れたい。 ・出来る人、やる人が決まっている状況。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	・問題定義をすることで、個々の考えを引き出す機会を作っている。 ・イベントはみんなで会議している。(季節のイベント含め)	・立案者が固定されている。 ・活動プログラムはないが、イベントや行事などは、話し合い、子どもへの遊びの提案ができるよう関わっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	・プログラム内容に変化をつけている。	・固定化しないよう今自分達が出来る中での変化をつけたいが、意欲的な発言・考えは出ない。 ・活動プログラムはないが、イベントや行事などは、話し合い、子どもへの遊びの提案ができるよう関わっている。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・そこまで、できていないが1日利用だからこそ出来ることは実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの動きや発信がなければ、自ら動いて活動をしようとするスタッフがいない。 ・平日、休日での過ごし方に変化を持たせているが、大きな変化はあまりついていない。 ・主に子どもがその日にしたい遊びをしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議の中で個々の課題に合わせた取り組みや支援を考えている。 	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっているが、問題として本人が捉えていなければ、情報共有や気づきにつながらない為、実際はまだまだ課題がある。 *重要であるが、重要であるという認識の弱さがある。 ・毎日ではできていない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調ケガ、欠席や送迎の時間変更、保護者からの相談など急ぎの内容に絞り報告を行う。また次の日が休みのスタッフは子どもの関わりについて報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっているが、報告が抜けていたり、伝達認識の甘さがあり、些細なことも共有できないのが現状。*重要であるが、重要であるという認識の弱さがある。 ・毎日ではできていない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・痙攣、発作のある子については、動画を撮るなど、正しく情報伝達を行う。 ・記録の記入がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差がある。*重要であるが、重要であるという認識の弱さがある。 ・毎日ではできていない。 ・毎日全員分の記録を書けているわけではない。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングを行い引き継ぎを行い再検討をしている。 	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	3	3		<ul style="list-style-type: none"> ・読んでいない。 ・ガイドラインを全員が把握していない。 	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		・現場の意見を聞いてまとめた上で、代表者が会議に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	・引き渡しの前の引継ぎ等でやっている。 ・学校からデイように送迎の際にプリント配布される。	・保護者経由である。(プリントをもらうこともある)
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6	・デイでの発作状況を月ごとにまとめ、主治医に保護者から渡してもらうことはある。	・利用児がいない。 ・医療的ケアが必要な子どもを受け入れたことがないのでわからない。 ・これまでの利用や問い合わせの中でいなかった為、受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4		・利用児(小1)がいない。 ・高学年の子どもが多く機会がない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		・相談支援事業所を通してスムーズな移行を目指している。 ・高3の利用児のデイでの様子や子どもの特性や配慮を欲しいことを現場でまとめ、活用してもらえる書類を作成し、必要に応じて訪問を行う。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	・2020年1月に区役所で行われたエルム大阪所長の研修には全員で参加。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		・まずは同法人内の施設(支援センターや児童養護施設)の子ども達との交流から始めたい。 ・たまに機会がある。(地域の公園など) ・児童養護の子どもと関わる機会はあるが、一緒に活動しているといえるほどの機会はない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6		・子ども支援部会への参加。 ・自立支援協議会主催の研修なども参加し、保護者へも周知している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・送迎時の引継ぎをスタッフで共有している。 ・送迎等で利用時の様子を伝えたり、家での様子をうかがう。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3	・研修報告、資料提供、研修情報を伝えている。 ・必要に応じて、モニタリングや担当者会議など(送迎時にも)子どもへの伝え方、関わり方を伝えている。	・保護者会を活用して、講座やセミナーを行いたい。(今年度初めて実現する予定)
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・モニタリングや面談、利用時の契約の際に伝える。 ・問い合わせの際など。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	・保護者の要望や相談を受け、デイで出来る取り組み支援の実践を考え行う。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		・毎年3月に保護者会を2日間開催している。(平日と土曜日) ・10月に利用児家族、元スタッフ、卒業生の同窓会を開く。	

護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情の内容の解決に支援の見直し、振り返りを行い、再度保護者に考えを伝え、理解を得られるように対応している。 ・信頼回復に向け、出来ることに精一杯取り組む。 	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のわくわく便りを発行している。 	
	35	個人情報に十分注意している	6		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援や簡潔にわかりやすく伝えるように言葉に配慮している。 	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の博愛社フェスティバルに参加。 ・8月にダンスイベントを行う。 	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		・変更があった場合は保護者会で伝えている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	・法人の防災委員、避難訓練、研修へ参加。必要な物品を備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・1年に1度の虐待研修へスタッフが参加し、その後全体へ伝達研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	・保護者からの言われた通りに対応している。	・そこまでの利用児がない。(アレルギーの子がない。)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・年4回福祉介護サービス相談委員会という外部の方との面談に向けての書類作成を行う。・ヒヤリハットがあれば専用の用紙に記入している。	